

## 平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

多様な生徒へ多様な教育活動を展開し、教員と生徒・保護者との信頼関係を深め、中退率の減少を図り、地域から信頼される学校となることをめざす

## 1 めざす生徒像

- 自尊感情を高め、夢や進路の実現に向け前向きに努力する生徒
  - 集団生活の中で、自他ともに敬い愛し尊敬しあう生徒
  - 確かな学力と社会性を身に付けた、責任を持った行動のできる生徒
- 2 地域に根差した学校として、地域と密に連携し、その教育力の活用を図りまた地域への積極的な情報発信や貢献を行う。
- 3 全日制総合学科として、専門性を深める教育を展開し、専門教員による授業内容の向上や指導態勢の充実を図る。  
また、厳しく教え優しく育てる生徒指導を行う。

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の育成

- (1) 総合学科のカリキュラムを見据え、基礎基本から応用に至るまで、多様な学習ニーズに即した授業の充実を図る。
- ア 基礎学力の向上を図るとともに、総合学科として多様な選択科目をより充実させ、系列ごとに系統だった学習の確保を行う。
  - イ 授業見学や研究授業および授業評価による、授業改善に重点を置く。
  - ウ 積極的に体験的な学習やICTを活用した授業展開を導入するとともに、基礎基本を重視した確かな学力を育成する。
  - エ 平成 27 年度から 3 学期制、50 分授業を実施し、授業時間の確保と授業内容の精選を行い授業の充実を図る。

※ 出席率を高め 1 年生で 70%、2・3 年生で 85%とする

※ 単位修得率を高め 75%とする

※ 授業アンケート“先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい”への肯定的な回答率を 90%へ

- (2) 平成 28 年度からの募集停止による減学級を見据えた学校運営体制の検討

## 2 生徒理解の促進と、生徒が主役の学校づくり

公開講座(美術・書道・工芸等)や農場を活用し、地域交流を図りながら、地域に根差した学校として地元から愛される咲洲高校をめざす。

- (1) 行事・クラブ活動・地域活動により魅力ある学校作りを実践する。

- ア 学校行事の内容充実を図り、全生徒の参加をめざす。
- イ 部活動や生徒会活動を活性化し地元地域との連携を行う。
- ウ 清掃活動を中心とした地域への奉仕活動も積極的に導入する。
- エ “クリーングリーン咲洲”を合言葉に 校内美化に努める。
- オ 生徒・地域・教員が互いに挨拶をする環境づくりに努める。
- カ 商業系列での珠算・簿記、1 年生に対する漢検全員受験等、資格取得の積極的な推奨を行う。

※ 行事参加率を 80%へ

※ 部活動入部率を 40%へ

※ 学校教育自己診断アンケートの“学校へ行くのが楽しい”への肯定的な回答率を 70%へ

- (2) 生徒理解と支援の徹底

”厳しさと優しさ”を持った生徒指導の徹底。生徒にとって安全で安心な居場所を提供し、全教職員で生徒の成長の為の支援を行う。

- ア 「なにかあれば、家庭訪問」を合言葉に、子どもの生活背景を踏まえたうえでの教育を実施する。家庭訪問及び授業参観・個人懇談を活用し、保護者との意思疎通を徹底する。
- イ 新入生を中心に中学校との連携を密にとり、中学校への支援も依頼しながら生徒育成にあたる。
- ウ 保健相談部を中心とし、配慮の必要な生徒の情報を全職員で共有し、また支援委員会が中心となり適切な支援を行う。
- エ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、外部機関との連携を視野に入れた支援を行う。
- オ 職員研修を積極的に実施し、教師のスキルアップを図る。
- カ 人権教育の充実を図り、全体計画を見直す。

※中退率を毎年前年比 10%減少させる

※入学した生徒の 7 割以上が卒業できる学校

※学校教育自己診断アンケートの“先生はよく声をかけてくれる”への肯定的な回答率を 90%へ

## 3 夢と志を持つ生徒の育成

- (1) 早期(入学後すぐ)からキャリア教育を実施し、生徒一人ひとりの夢の実現に向け指導する。
- (2) 総合的な学習の時間(「夢咲かそう」と志学、「産業社会と人間」)及びLHRを活用し、真の社会人として活躍できる生徒の育成と、生徒全員の進路希望の実現をめざす。  
(卒業時進路先決定率 100%をめざす)
- (3) 生徒の規範意識の醸成
- ※ 遅刻者の大幅減少・頭髪指導・制服指導の徹底
  - ※ SHRの定着
  - ※ 卒業時の就職先未定者をゼロに

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や教師に対する評価は、学年進行に伴い高くなっている。これは、「日々の学習活動」が継続されることによって、授業内容の理解や教員との信頼関係が深まってきているということが伺える。</li> <li>・テストの点数に重点をおくのではなく、出席や課題提出等を含め、総合的に成績を評価していることを約 84%の生徒が理解しているので、努力することの大切さを継続指導しながら結果に結びつくよう根気強く指導していく。</li> <li>・「授業がわかりやすい」、「教え方に工夫している」や教師の生徒への見守り姿勢の項目に対する肯定的な意見は 60%を超えているが、今後も「より分かる授業」をめざし、授業改善の取組みを行いながら、更に広い視野を持ち生徒の様子を見ていく取組みが必要である。</li> <li>・教師側の意見も話し合う機会や相互の連携に関して、前年度よりも評価が高くなっており、教員が互いに協力しながら学習活動を行っていることがわかる。</li> </ul> <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「学校へ行くのが楽しい」「学校生活における先生の指導には納得できる」に対する肯定的な意見は約 60%あるが、十分な数字とは言えないので更なる授業改善やよりきめ細やかな生徒指導の取組みが必要である。</li> <li>・保護者の意見では、昨年度に比べ若干ではあるが全体的に低調傾向にあるので学校全体としてより丁寧で細やかな家庭との連携が必要である。</li> </ul> <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の全体研修への参加が 78% (H26 は 60%) と向上し、教員アンケートで昨年度より肯定的意見が向上した項目が 45 項目 (全 64 項目) あったが、保護者の意見と乖離している項目もあるので、その点に関しては詳しく検証し改善していく必要がある。</li> <li>・「教職員の意見が反映されている」という評価は前年度より高くなった。今後も広く意見を拾い上げて、効率的、弾力的な学校運営をめざしたい。</li> </ul>	<p>第 1 回 (5/15) 学校経営計画の策定について</p> <p>「1 めざす学校像」、「2 中期的目標」については、変更点はない。 「具体的な取組計画・内容」に「テストの成績だけでなく、出席や課題提出状況などを含めて評価していることを生徒に周知徹底する。」を追加、挨拶の活動を具体的に示した。「評価指標」について昨年度の結果をもとに設定を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テストの成績だけでなく、出席、課題提出等で評価しているということを周知徹底することで、結果だけでなく努力の大切さを教えることができる。</li> <li>・あいさつとは、コミュニケーションの基本であり、必ず習得しておくべき社会人基礎力である。</li> </ul> <p>第 2 回 (10/7) 学校経営計画の進捗状況について</p> <p>進級・卒業率をはじめ目標達成がたいへん厳しい状況となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標は、達成できていないと負の評価に思われがちだが、それぞれの項目において十分に成果は出ているので生徒たちや先生方の努力もしっかり評価したい。</li> <li>・基本的な生活習慣を身につけさせるためには学校の指導だけでなく保護者の協力が不可欠であり学校だけに責任を押し付けてはいけなさと実感した。</li> <li>・8 月に実施した地域イベントでは、咲洲の生徒がボランティアとして参加してくれ子どもたちはたいへん喜んでた。</li> </ul> <p>第 3 回 (2/12) 平成 27 年度学校評価および平成 28 年度学校経営計画について</p> <p>平成 27 年度学校評価について全体的に目標値を下回っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校はたいへん努力されているが募集停止が少なからず影響していると考えられる。</li> <li>・平成 27 年度学校経営計画及び学校評価(案)について、学校協議会として承認。</li> </ul> <p>平成 28 年度学校経営計画(案)について大きな変更点はないが、数値目標をパーセントではなく、具体的な数値で表記した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度の学校協議会へ特段の異論はないとお伝えすることとし、了承。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1 確かな学力の育成</p>	<p>生徒の授業への参加を促すとともに、“魅力ある授業作り”を重点課題に据え、進級・卒業数の向上を図る。</p> <p>(1) 生徒の学ぶ意欲の涵養</p> <p>(2) 基礎基本の習得</p> <p>(3) 教員の授業力の向上</p> <p>(4) 体験学習や ICT 機器の活用</p> <p>(5) 平成 28 年度からの募集停止による減学級を見据えた学校運営体制の検討</p>	<p>(1)・本校の特色である少人数展開及び多様な選択科目を充実させ、個のニーズにあった充実した授業を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>三学期制、50 分授業を有効活用し授業内容の充実を図る。</li> <li>テストの成績だけでなく、出席や課題提出状況などを含めて評価していることを生徒に周知徹底する。</li> </ul> <p>(2)・全生徒に対して「基礎力診断テスト」を行い、個々に応じた学びなおしと個人の学習力を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教科独自教材活用で基礎学力の向上をめざす (ICT の活用やプリント学習等)</li> </ul> <p>(3)・年間 2 回の教員による授業見学や管理職による授業観察を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年 1 回の教科毎の研究授業の実施</li> <li>年 2 回の授業評価 (生徒アンケート) を実施。1 回目終了後改善計画を作成し 2 回目で検証を行う。</li> </ul> <p>(4)・実験実習を多く取り入れ、体験的学習の機会を多く持つ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話せる英語・使える英語を重視した授業等生徒が主体的に取り組める授業を展開する。</li> <li>タブレット型 PC や大型モニターを使った学習を導入</li> </ul> <p>(5) 検討委員会を設置し今後の学校運営体制を検討する。</p>	<p>1 年生の 70%、2 年生の 90%以上の進級 3 年生の 100%が卒業 授業アンケート“先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい”への肯定的な回答率を 90%に 各学年の出席率を各 5 ポイントアップ</p> <p>(1)・授業内容の精選と改善のため教務部・系列長・SP 委員会を中心に方策を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合学科の共通科目では基礎的な、系列では専門的な力をつけさせる為の平成 28 年度以降の教育課程の策定</li> <li>単位修得率 80%</li> </ul> <p>(2)・1 年で漢字学習を実施し、1 年生全員による漢検受験の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大学進学を視野に入れた講習の実施</li> <li>各学年で、遅進者対策の為の補習の実施</li> </ul> <p>(3)・教科ごとの年 1 回の研究授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年間一人 2 回以上の授業公開及び授業見学の実施</li> <li>授業評価 1 回目より 2 回目の改善</li> </ul> <p>(4) 各教科で ICT 機器を活用した授業の実施</p> <p>(5) 平成 28 年度学校運営体制の完成</p>	<p>( ) は前年度末</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●進級卒業率(△) 1 年 52%(70%) 2 年 70%(88%) 3 年 92%(93%)</li> <li>●授業アンケート(△) 第 1 回肯定回答 76%(78%) 第 2 回肯定回答 81%(82%)</li> <li>●出席率 73%(75%) (△) 1 年 64%(68%) 2 年 72%(70%) 3 年 83%(86%)</li> <li>●単位取得立(△) 77%(79%)</li> <li>●専門的な力 (○) 珠算二段取得</li> <li>●1 年漢検 1/15(○)</li> <li>●授業見学・研究授業実施済(○)</li> <li>●社・理・英・書等で ICT 機器活用(○)</li> <li>●運営体制 (○) SP(閉校に向けた課題解決)委員会設置</li> </ul>
<p>2 生徒理解の促進と、生徒が主役の学校づくり</p>	<p>(1) 学校行事・部活動・生徒会活動・地域活動の活性化</p> <p>(2) 厳しく教え、優しく育てる生徒指導</p> <p>(3) 生徒の実態把握と支援</p>	<p>(1)「魅力ある学校づくり」の一環として、行事・部活・地域連携・生徒会活動の活性化を図る。</p> <p>ア・入学時オリエンテーションの内容を精選し、咲洲高校生としての自覚を促す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行事へのクラス参加を奨励するとともに修学旅行・卒業アルバム作製等を通じて仲間作りや愛校心を芽生えさせ、魅力ある学校として認識させていく。</li> <li>生徒会役員が中心となる学校行事への移行</li> <li>行事への参加率を高める。</li> </ul> <p>イ・新入生を中心に部活動加入率の向上をめざす。</p> <p>ウ・地域行事への積極的参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中期計画推進費により整備した農場等、校内の各種特別教室を活用した近隣幼稚園・保育所等との連携及び地域住民との交流を図る。</li> <li>学校協議会における「地域連携に対する学校の取組み」関連評価の向上をめざす。</li> </ul> <p>エ・ホームページや咲洲メールマガジン等を通じて情報発信を行う。</p> <p>(2) 生徒を理解し、守り、育むために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一中退防止の為の指針の実施</li> </ul> <p>ア・“何かあれば家庭訪問”を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学期ごとの個人懇談を活用し、全員の保護者との意思疎通を徹底する。</li> </ul> <p>イ・新入生を中心に中学校との連携を密にとり、中学校からの支援も依頼しながら生徒の育成にあたる。特に退学しそうな生徒に対しては中学校・保護者と連携し支援にあたる。</p> <p>ウ・生徒相談体制の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>相談室の活用と相談機会の提供。</li> <li>保健相談部と支援委員会の情報共有と連携を図る。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援委員会を中心とするケース会議を実施し、場合によっては SC や S W の参加も要請する。</li> <li>生徒指導部と保健相談部が連携し、心のケアを必要とする生徒へのサポートを強化する。</li> </ul> <p>(3) 生徒の支援</p> <p>ア・支援委員会を活用し、必要な生徒へは学校を挙げて支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「高校生活支援カード」の積極的活用</li> </ul> <p>イ・ニーズに応じた職員研修の実施。</p> <p>ウ・策定した人権教育計画により、豊かな人権教育を推進。</p>	<p>(1) 学校行事等の改革</p> <p>ア・入学時オリエンテーションの有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>行事への参加率 75%</li> </ul> <p>イ・部活動の加入率 40%</p> <p>ウ・地域行事へ年間 2 回以上の参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内施設を活用した公開講座等の地域交流事業を年間 3 回以上実施する。</li> <li>交流事業の広報活動として、自治会掲示板の利用などの施策を講じる。</li> <li>農場を活用し、年間 2 回以上の地元幼稚園との連携及び地域住民との交流</li> <li>学校の持つ人的資産を活用し地域の小学校へ出前授業等を実施する。</li> </ul> <p>エ・ホームページをタイムリーに更新し情報発信に努める (年間 100 回以上の更新)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて中学校訪問</li> </ul> <p>(2) 中退率の前年比 10%減少</p> <p>ア・家庭訪問強化週間を設定する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導規律の徹底を図ると共に、保護者の理解を深める為の家庭訪問を推奨 (年間総数 200 回)</li> </ul> <p>イ・新入生の出身中学への訪問、中高連絡会等、中学校との情報交換を 3 回以上実施する。</p> <p>ウ・各学期に保護者懇談を実施するとともに、SC 等の活用を図り相談の機会を提供する。</p> <p>(3) 生徒の支援充実</p> <p>ア・必要に応じて支援委員会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保健相談部と支援委員会が連携し「高校生活支援カード」を作成する</li> </ul> <p>イ・支援教育を中心とする職員研修を年間 10 回実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>職員研修への参加率を 65%以上</li> </ul> <p>ウ・策定した人権計画に基づき、各学年で人権学習を実施。生徒の人権意識の向上はアンケート等で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●行事参加率 70%(70%) (△) 遠足 79%(82%)、 スポフェス 77%(71%)、 文化祭 71%(72%) 芸術鑑賞 55%(54%)</li> <li>●部活動率 26%(38%) (△)</li> <li>●地域交流 (◎) ・校庭のピリ狩り 6/13 ・太陽 7/25、花 8/1 の祭 ・ミュージックフェス太陽 8/22 ・幼稚園芋植 5/21 芋掘 10/22</li> <li>・家庭科授業で幼稚園と交流 12/3、1/15</li> <li>・珠算出前 4 小学校へ</li> <li>・部活動交流</li> <li>・市民公開講座(美、書)</li> <li>●HP 更新 (○) 133 回</li> <li>●中退率 (△) 86 名 24%(62 名 16%)</li> <li>●家庭訪問 (△) 161 回(172 回)</li> <li>●中学校との情報交換実施(○)</li> <li>●懇談会等(○)</li> <li>●支援体制 (○) ・支援委員会審査毎 ・支援カード ・個別の支援計画 ・学習支援 ・ケース会議</li> <li>●職員研修(◎) 開催 12 回(13 回) 全員研修 3 回 参加率 75%(60%) ケース会議等 9 回</li> </ul>
<p>3 夢と志を持つ生徒の育成</p>	<p>(1) 確かな進路保障</p> <p>(2) 規範意識の醸成</p> <p>(3) 挨拶・返事・清掃の徹底</p> <p>(4) インターンシップ活動の奨励</p> <p>(5) ボランティア・地域活動へ参加</p>	<p>(1) 入学当初からキャリア教育を充実させ「夢咲く未来」の実現を図る。</p> <p>ア・卒業生全員の進路実現</p> <p>イ・積極的に外部人材の活用等も視野に入れながら、「産業社会と人間」や総合、LHR の時間を活用し 1 年生からのキャリア教育の推進を図る。</p> <p>(2)・生徒指導規律の徹底を図り、全体生指の発想での生徒指導体制で臨む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年集会や SHR を通じて生徒に指導や啓発を行う。</li> <li>生徒指導室の効果的活用</li> <li>遅刻生徒へは生徒指導室において入室許可証を発行する。</li> <li>制服・頭髪等みだしなみ指導の徹底</li> <li>学年職員室の活用</li> </ul> <p>(3)・教員が模範となり、「だれでもいつでも挨拶する」ことの徹底。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>年 2 回の清掃活動等の奉仕活動の実施。</li> </ul> <p>(4)・夏季学校外学修で行う各種企業等への体験学習を充実させる。</p> <p>(5)・生徒会を中心に各種ボランティア活動や地域行事へ積極的に参加する。</p>	<p>(1) 卒業生徒の進路先決定 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業生の 100%進路先決定</li> <li>就職対策としての徹底した面接指導</li> </ul> <p>(2) 遅刻者の大幅減少 (年間総数を 7,000 件以下に)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年集会を学期に 1 回実施し定期的な頭髪指導にあたる</li> <li>毎朝 SHR を行なう</li> </ul> <p>(3)・毎日教員が正門で登校してくる生徒を迎える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会で挨拶運動の実施</li> <li>清掃活動を各学年、年 2 回以上実施する</li> </ul> <p>(4) インターンシップへの参加者を 15 名以上に</p> <p>(5) HP、校内掲示等を通じ、ボランティア活動をこれまで以上に奨励・推進する。 (年間 2 回以上のボランティア活動)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●進路決定状況(○) ・学校斡旋就職 31/31(25/25)</li> <li>・進学状況 37/37(32/32)</li> <li>●懲戒件数(△) 53 件 66 人 (48 件 73 人)</li> <li>●遅刻指導(△) 9,963 回 (8,975 回) あいさつロード設置</li> <li>●インターシップ 8 名(△) 実施状況良好</li> <li>●ボランティア (○) 校外清掃各学年 大阪マラソンボランティアに 生徒 12 名 教員 7 名参加</li> </ul>